

別添:新聞記事一覧

※句読点や中点は、引用者が補っているところがあります。

No.	掲載紙名	朝/夕	発行日	曜日	面	記事タイトル	記事内容
記事①	読売新聞	朝刊	T13.3.28	金	5面	花時に小金井に停車場が建つ 今年 は仮建築だが来年は五十万円で	小金井へ観桜のお客さんは皆国分寺か武蔵境で汽車を降り、遠い道をテクテク歩かなければならぬので、鉄道省では四月中旬から五月中旬まで恰度観桜期間だけ、前記両駅の中間新宿から十一哩五十鎖、即ち東京市墓地予定地の近くに臨時小金井駅を新設し、汽車・電車を停めて観桜客の便宜を計る事にした。そのため既に七千円の予算を計し、出札・改札・プラットホーム等必要な建物の準備中であるが、尚近く東京市墓地が移転すれば自然お客さんも増加するから、鉄道省では来年度に五十万円の予算で旅客専門の小金井駅を新設し、出来上り次第、普通停車場同様、電車・汽車のお客さんを取扱ふ事に決定した。小金井駅の新設は其の地方でも鉄道省でも早くから必要を認めていたのだが、金が無いので行悩んで来たが、今年はその地方から仮駅新設の費用全部を負担するからと小松鉄相に請願があり、且つ本省でも来年は小金井駅を新設する予定で用地まで決つて来た関係上、異議なく今年は臨時仮停車場で一時期我慢する事になつたのであると。
記事②	報知新聞	夕刊 (9日夕刊)	T13.4.10	木	11面	花見の近道 あす出来る小金井駅 敷地に工費を添へて地主磯村さんの寄付	桜の名所の小金井に今度臨時停車場が新設され、その開場式を十一日午後一時同所で行はれる事となつた。今まで小金井に遊ぶ花見客は二里以上の道を歩かねばならぬので、「もう少し交通の便がよかつたなら」とかこつ声を聞いたが、武蔵境と国分寺の中央に設けられたこの停車場によつてその声もきかなくなるであらう。この臨時停車場は小金橋まで三丁の地点で、近年來鉄道省の懸案であつたが、予算の都合上、実行する事が出来ず行悩んで来た折柄、その候補地の地主、芝区三田四国町一、東京三田育種場長である磯村貞吉氏が震災後の市民の気分を作興させる為、また名所小金井を世に紹介する公共心から、敷地の三千坪と設定工費凡そ七千円を鉄道当局に寄付し、その実現に努力した結果、いよいよ落成し、今年の花見からこの新駅を利用する事になつた。この停車場の存続期間は四月十一日より四月末日まで、その期間中は中野・国分寺間を朝八時から四時まで往復十六回の臨時電車を増発する事になつてゐる。
記事③	東京日日新聞	府下版	T13.4.11	金	6面	武蔵小金井と花の新駅 けふ新設祝賀会	花の雑踏を緩和するため中央線武蔵境、国分寺両駅間に仮停車場「武蔵小金井」が新設されること既記の如くて、先ごろ来工中のところ漸く竣工、今十一日から開駅することとなつたので、同日午後一時から同所に付近有志は新設祝賀会を催すと
記事④	時事新報	夕刊	T13.4.12	土	6面	小金井駅けふ開業	中央線境、国分寺両駅の間に出来た「武蔵小金井」駅はいよいよ十一日開業。午後六時から夜十一時まで、四月中毎電車とも停車することになつたが、今年午後一時から小金井村では鉄道関係者等を招いて開駅祝賀会を催した。同駅は桜の名所小金井のすぐ前で、従来は約一里も歩いたのを僅か三町程で花のトンネルへ行けるから、花見には誠に好都合である。
記事⑤	国民新聞	夕刊	T13.4.12	土	3面	小金井駅 花時の間新設 将来は電車駅	中央線の沿線小金井の桜も綻び初めた。毎日花見の連中が押しかけ非常な賑ひを呈して居る。鉄道省では是等花見客の便利をはかるため、武蔵境・国分寺駅間に十一日から四月三十日迄の間、臨時に小金井駅を新設し、今日午後一時開場式をあげ、中野・国分寺間の上下電車を全部同駅に停車させ、尚十三日・廿日の日曜には、一日十六回の臨時電車を運転する事になつて居るので、各駅でも小金井行き切符を発売する外、小金井駅は同地発展のため、附近の住民も電車駅として永続させたいとの陳情もあるので、将来は電車駅として之を認むる方針である。
記事⑥	東京日日新聞	朝刊	T13.4.12	土	11面	小金井の桜 盛りは五六日の後	花の名所小金井の桜 多摩川上水の長堤両側約一里半に亘る老木は、いま二・三分ほころびたばかり。盛りは五・六日の後であらう。今年花時中臨時停車場「武蔵小金井駅」が新設されたが、今夜からは所々にアーク灯と「を」の誤記力)として夜桜を見物させる設備もした。駅からはわづか六町ばかりで、どんな足弱な女子供にでも一日の行楽が出来る。同所から花のとんねる約廿町をぶらぶらあるいて省線電車の国分寺駅へ出れば、帰途には便利である。
記事⑦	東京日日新聞	府下版 桜花号	T13.4.13	日	6面	客待ち顔の花の装ひ 見頃は十五日	(前略)なほ境駅と国分寺駅との間は相当に距離があるので、こゝに一駅設けたら一層混雑を防ぐことが出来るといふので、予て地元民の請願により花見時だけの仮駅を設けることになり、十一日から武蔵小金井駅を開設した。これは小金井に最も近い所でもあるので、恐らく花見客の多くはここで吞吐される事になるだらう。(後略)
記事⑧	東京日日新聞	府下版	T13.4.15	火	6面	花時の新駅 むさし小金井	写真掲載のみ
記事⑨	東京日日新聞	夕刊	T14.3.10	火	2面	桜を思はせる南風 お花見の客捌きを駅長さん達が相談 小金井と飛鳥山行きの乗車券五十萬枚前売りの印刷に着手 臨時列車増発の計画	(前略)小金井仮乗降場は今年には鉄道側が金を出して新設することになり既に準備に着手した。(後略)

No.	掲載紙名	朝/夕	発行日	曜日	面	記事タイトル	記事内容
記事⑩	東京朝日新聞	夕刊	T14.3.10	火	2面	花見電車と汽車の増発	(前略)小金井駅は是まで花見頃になると同村民の手で仮ホームが作られたが、今年は鉄道省側で仮ホームを設けること、(後略)
記事⑪	東京日日新聞	朝刊	T14.4.3	金	11面	『観桜』の札掛けて省線電車の奮発 中央線各駅には臨時出札口 中野は乗替へなし	(前略)なほ、各駅に臨時出札所を設け、武蔵境と国分寺の間に武蔵、小金井仮乗降場が出来上がつてゐるが、四月九日から開場する。出札口四ヶ所、改札口十ヶ所が出来てゐる。客のおほい日は教習所の生徒二百名を全線に配置し、非番の職員を招集して客の整理をすと。
記事⑫	東京朝日新聞	朝刊	T14.4.7	火	6面	小金井仮停車場設置 観桜客の為に	いよいよ花見時となつたので、例年より中央線では花見客の緩和を計る目的で、来る四月十日より武蔵野境〔武蔵境：引用者〕・国分寺間に小金井仮停車場を設ける事となつた。
記事⑬	時事新報	夕刊	T14.4.11	土	2面	さくら電車 小金井ゆき 今日から仮停車場を設け特別観桜乗車券売出し 見頃は十九日の日曜頃か	小金井観桜客の雑沓に備へるため、東京鉄道局では今日から中央線武蔵境・国分寺間、最も花に近い処に武蔵小金井仮乗降場を設け、市内各駅から特定運賃の観桜乗車券を発売する。本年は十九日の日曜日が見頃と予想して、当日中央線中野若しくは吉祥寺迄の電車は山手線直通電車を除いて、午前七時より午後七時迄全部国分寺迄延長、十二分毎に四輛連結の電車を運転し、尚其間に新宿・国分寺二往復、八王子・国分寺間一往復、臨時列車を運転し、又武蔵境通過の普通列車は下り四個列車、上り五個列車を臨時停車することゝなつて居る。観桜特殊乗車券は往復で、武蔵境・小金井・国分寺どこでも乗降差支なく運賃は次の通りである(後略)
記事⑭	時事新報	夕刊	T14.4.19	日	2面	花見る人に あすの見頃はどこ？ 汽車電車の都合は 日曜の臨時列車と直通電車	(前略)小金井行には国分寺までの直通運転が、午前七時から午後七時まで十二分置に運転され、臨時列車は新宿発午前九時卅五分、午前十時四十七分国分寺行、国分寺発午前〔午後力〕四時十一分、午後四時四十七分の新宿行が出る外、武蔵境を通過する列車は臨時停車し、汽車の武蔵小金井仮乗降場は小金井行の客の乗降を待ち受けて居る。
記事⑮	読売新聞	朝刊	T14.12.12	土	3面	花のお客を当込みの新停車場 正月から開業の小金井駅 千人は収容できる大待合室	『屋根は葡萄色のスレート葺、建物の腰は地上三尺まで人造石の洗出し』此の文化様式建築は東京鉄道局が二年掛りで苦心した桜の名所、小金井駅の模様である。いよいよ工事も完成したので、正月十五日から花々しく開業し、お客さんの乗降を始める事となつた。東京駅から大体電車賃四十銭、武蔵境と国分寺の中間にあり、駅から小金井の桜の土堤まで約八丁、同村では花見時までに停車場から桜林まで十間幅の直通道路を新設すると言ふ。何しろ場所柄とて当局の苦心も並大抵でなく、武蔵野の空の色の周囲の花の眺めにしつくり一致した気持ちよい建物で、花時の混雑を顧みずプラットホームは百八十尺、約半丁もあつて田舎の停車場には稀な長さである。本屋(待合室)へも卅六坪、俄雨の時は千人近くの人は収容出来る外、平素は表口だけ使ふのだが、花時は裏口も開ける様に仕組み、表も裏も駅前広場へは更に百坪位の天幕を張つて、やはり数千人位、雨の日客が避難できる準備も整つてゐる。総経費約五万円。開業の上は、中央線の汽車も停車させるといふ。
記事⑯	読売新聞	朝刊	T15.1.5	火	5面	小金井駅開く	四日鉄道省告示を以て、本月十五日より中央本線武蔵境・国分寺間に左の停車場を設置し、一般運輸営業を開始の旨発表した。其停車場名及哩程は左の通りである 武蔵境(既設停車場) 武蔵小金井(新駅)(武蔵境・武蔵小金井間二哩一分) 国分寺(既設停車場)(武蔵小金井・国分寺間一哩四分)
記事⑰	東京日日新聞	府下版	T15.1.16	土	10面	『武蔵小金井』喜びの声につつまれて昨日から開業	中央線『武蔵小金井駅』の開業式と協賛会主催の祝賀会は、十五日正午から同駅前広場に開かれた紅白のだんだら幕に囲まれた広場には、居嚙しやら茶番・狂言・太神楽の余興が笛太鼓に景気をつけ、今日を晴れと気飾つた村の人達がゑいゑいとう繰出す大賑ひ。天幕張りの式場では、定刻まづ鈴木村蔵氏の開会の挨拶で式を開き、星野村長の告辞につぎ、鈴木協賛会長の祝辞あり、鉄道大臣代理人並・小島両代議士、橋本・中村両府会議員、福田郡長、中西署長、桑田町村長会長、地主代表磯村貞吉氏その他交々祝辞を朗読して、午後一時半、式は閉ぢられ引続き宴会に移り、来賓五百余名は太神楽や花自動車ののやしや爆竹やらの陽気なふん囂気につつまれ、折り詰を解いてにぎにぎしく祝賀の日を陶酔して、夕刻解散した。